

あさがお



花言葉:「愛情の絆」「堅い結束」



特集

| 下田メディカルセンター 外科 |

下田の豊かな自然に
囲まれた病院で、
地域に必要な医療を
提供します

AREA TOPIC

静岡県駿東・伊豆エリア 初!

| 下田メディカルセンター |

「ふじのくにねっと」を導入

脊椎脊髄疾患の手術治療で 地域から信頼される病院をめざす



埼玉脊椎脊髄病センターでは地域のクリニックの先生方と連携をとりながら、手術治療が必要な患者さんを受け入れ、専門性の高い医療を提供しています。患者さんにとってベストな治療とは何か、一人ひとりと向き合う姿勢を大切にしています。

脊椎脊髄疾患の手術治療に特化

埼玉脊椎脊髄病センターでは、手術治療を中心とした脊椎脊髄疾患の診療を手がけています。地域のクリニックの先生方と連携を取り、手術治療が必要な患者さんに対応していくのが私たちの役割です。そのため病診連携に力を入れています。当センターですべての患者さんを抱え込むのではなく、手術治療を終えた患者さんをクリニックの先生のところにお戻しして、薬での治療を続けていただきます。

当院で多く扱っているのは腰部脊柱管狭窄症です。間欠性跛行といって、歩いていると足が痛くなり、歩けなくなってしまう症状があります。

ります。基本は薬などを使った保存治療ですが、それだけでは症状が緩和しない場合は手術治療の選択肢もあります。

患者のQOLを向上させる手術

腰部脊柱管狭窄症があると歩けなくなり、筋力が落ちてロコモティブシンドローム（運動器症候群）の状態に陥ってしまいます。ロコモティブシンドロームとは運動器の衰えが原因で歩行困難になり、要介護のリスクが高まる状態のことです。腰部脊柱管狭窄症は、ロコモティブシンドロームを引き起こす疾患の一つでもあります。それを防ぐためにも治療によって歩けるようになることが重要だと考えています。

当院では高齢の患者さんへも積極的に手術を行っています。たとえ80代、90代の方であっても、手術によって症状は改善します。健康寿命を考えると、元気に活動する時間を長くするための手術は有効でしょう。

ただ、その一方で手術を受けたくなければ受けなという選択もあって良いと思います。私の祖母は、腰部脊柱管狭窄症でも手術を受けませんでした。97歳になった今も足の痛みはあるものの元気にして

います。必ずしも手術が必要なのではなく、患者さんが希望されるかどうかが大切なのです。

脊柱変形の低侵襲手術を実施

私得意としているのは脊柱の変形矯正の手術です。脊柱変形は加齢によって背骨が曲がってくるもので、難しい手術なので時間も長かかります。朝9時に始めて、終わるのは夕方5時ということもあります。脊柱変形の治療は、低侵襲な手術としてXリーフという機器を使い、出血量が抑えられるようになりました。以前は手術で3000cc以上の出血がありましたが、Xリーフを使うと1000cc程度です。患者さんの体への負担を考えると大きなメリットがあります。

術前の丁寧な説明を大切に

当センターにいらっしやるのは手術を希望する患者さんがほとんどなので、外来の時間をしっかり設けてお話をするようにしています。少しでも安心していただくために、これまでの症例を提示し、合併症についても詳しく説明をします。

手術をするには、「買い物に行きたい」「ゴルフをしたい」といった患者さんの目的が大切です。そうした目的があれば手術を乗り越えられます。外来に来たときには車いすだった患者さんが、手術を終えて3カ月もすると普通に歩いて来られる。良くなって帰られる姿を見ると、医師としてやりがいを感じます。

骨粗しょう症の予防に注力

手術治療に力を入れる一方で、骨粗しょう症の予防にも取り組んでいます。骨粗しょう症に関しては、脊椎の圧迫骨折や大腿骨の頸部骨折の予防が最終的な目的です。手術になるような疾患をなるべく減らし、骨折しないようにしていくことが大切です。日本の骨粗しょう症の治療薬の内服率は20%台で、他の先進国に比べても低い数字。いまだに骨粗しょう症が増えている背景には、そうした問題があります。

当院では副院長の浅野先生を中心に、骨粗しょう症を社会に認知してもらうためのサポーターの育成や、クリニックの先生方に向けての研修会開催に積極的に取り組んでいます。ご紹介いただいた患者さんは当院で診断をつけて、どのような薬が適切かをアドバイスし、かかりつけの先生にお戻りするなど、地域全体のレベルアップに尽力しています。

臨床の気づきを研究につなげる

スイスとアメリカに留学した経験が、私の医師としての大きな財産になっています。スイスでは脊椎外科医として世界的に知られるエッセンスキー先生のもとで学び、それまで自分が身につけたものが「世界にも通用する」と自信を持てるようになりました。アメリカではレンケ先生のもとで脊柱変形の難しい手術をたくさん見られたことが、今の診療につながっています。長時間の手術をするには体力がなければなりません。アメリカの先生たちの影響で

ジョギングをする習慣が身につきました。留学を通して知り合ったさまざまな国の先生たちとの交流も続いています。

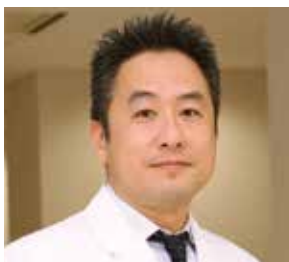
現在も論文発表には力を入れて取り組んでいます。珍しい症例があれば学会で発表し、他の先生方の意見をお聞きします。論文としてまとめることで、自分の中に臨床の経験が積み上げられていきます。

質の高い医療を提供し続ける

ご高齢の方が増えていますので、これからも脊椎脊髄疾患の手術を継続して提供していきたいようにしていきたいと考えています。そのためには人材育成が重要です。これまで培ってきた技術を、若い先生たちにも伝えていきたいと思っています。

当センターでは、手術が必要な小児の脊椎脊髄疾患に関しては、連携する獨協医科大学埼玉医療センターなどにご紹介していますが、それ以外の手術はほぼすべてに対応しています。手術を希望される患者さんがいらっしやいましたら、ぜひ当センターにご紹介ください。

患者様のご紹介につきましては、地域連携課までご連絡ください。
東埼玉総合病院 地域連携課 TEL 0480-40-1318(直通) 埼玉県幸手市吉野517-5



埼玉脊椎脊髄病センター センター長
中村 豊 Yutaka Nakamura

1996年に獨協医科大学を卒業。獨協医科大学越谷病院(現・獨協医科大学埼玉医療センター)の整形外科、幸手総合病院で勤務。2010年からスイスのシュルテスクリニック、米国のワシントン大学セントルイス校脊椎外科センターへ留学。帰国後、流山中央病院整形外科部長、東埼玉総合病院埼玉脊椎脊髄病センターの副センター長を経て、2015年にセンター長に就任。



骨粗しょう症の予防に注力する浅野副院長

座間総合病院 整形外科 ～膝・肩・脊椎の専門3名が着任



部長
中脇 充章 Mitsufumi Nakawaki

北里大学(2009年卒)
[資格] 医学博士、日本整形外科学会 整形外科専門医、
日本スポーツ協会 公認スポーツドクター
[専門分野] 肩疾患・整形外科全般

2020年4月より、座間総合病院 整形外科部長を拝命いたしました。
整形外科の疾患は四肢体幹と広範囲に及び、スポーツ、外傷、変性疾患や骨粗しょう症などの代謝性疾患と多岐に渡ります。整形外科の魅力でもあり難しいところもありますが、同一疾患でも患者さんの状態や求められているゴールによっても治療法が変わり、また退院後の生活様式も変わってきます。個人といたしましては肩を専門とさせていただいておりますが、肩は機能が多彩であり、形態学的な評価だけでなく機能的評価も非常に重要となります。またスポーツ外傷であれば、再発予防も重要となります。当院は手術室に加え、リハビリや地域包括も充実しており、様々な職種と協力して患者さんの希望に沿った質の高い治療が可能と考えております。

連携医の先生方からもご意見ご要望等お聞かせ頂き、ご紹介いただいた大切な患者さんに満足頂ける医療を提供できるよう研鑽・尽力していきます。よろしくお願いいたします。

大学病院で一般整形外科研修の後に、膝関節専門病院で11年間治療に携わった経験から、膝関節・スポーツ専門として2020年4月より座間総合病院に着任いたしました。膝関節痛をもつ患者さんは小児～高齢の方まで幅広く存在し、痛みの原因も千差万別のため、その方にあった治療が望まれると考えています。

幸いにも、変形性膝関節症に対する人工関節置換手術は座間総合病院人工関節・リウマチセンターがあり、相談できる心強いチームの先生方がいらっしゃいます。

他、スポーツ障害に対する手術(半月板修復・靭帯再建術等)・リハビリ・装具療法や高位脛骨骨切り術による関節温存手術などで地域医療に貢献できればと思います。

私自身大学生時代、アメリカンフットボール中に膝関節前十字靭帯を損傷して手術を行い復帰した経緯があり、治療・リハビリに関して経験則でもアドバイスできると考えています。よろしくお願いいたします。



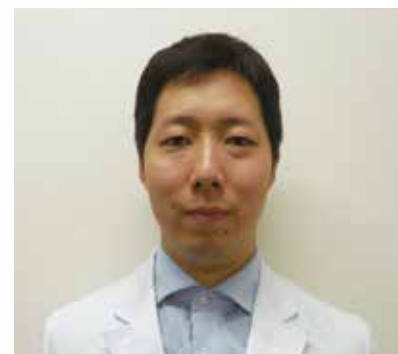
部長
鈴木 航 Kou Suzuki

獨協医科大学(1999年卒)
[資格] 日本整形外科学会 整形外科専門医
[専門分野] 膝疾患・整形外科全般

膝・肩・脊椎と専門分野が異なります。
骨折等の一般外傷を含めて、
整形外科全般を幅広く診察いたします。
ご紹介をお待ちしております。

■外来担当医表

	月	火	水	木	金	土
午前	中脇 鈴木	池田 楠原	中脇 鈴木	中村 池田	池田 安部	北里 派遣医
午後	鈴木	中村	田中	太田	安部	



池田 信介 Shinsuke Ikeda

北里大学(2013年卒)
[資格] 医学博士、日本医師会 認定産業医、
義肢装具等適合判定医
[専門分野] 脊椎・整形外科全般

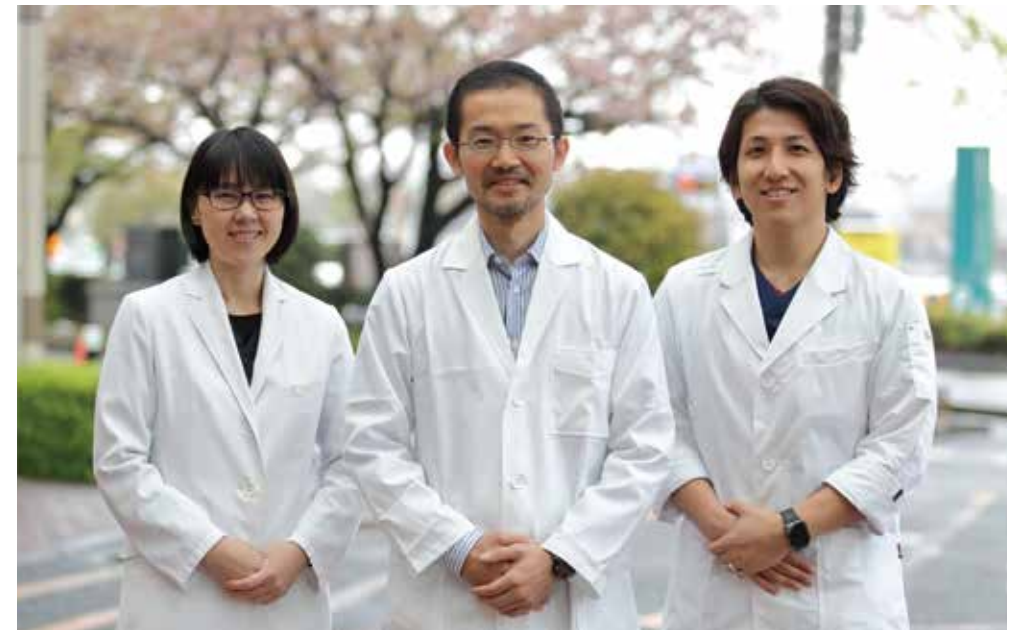
患者様のご紹介につきましては、患者サポートセンターまでご連絡ください。
座間総合病院 患者サポートセンター TEL 046-251-3700(直通) 神奈川県座間市相武台1-50-1

海老名総合病院 呼吸器内科 ～常勤医3名の新体制でスタート

2020年4月より呼吸器内科が常勤医3名の新体制でスタートいたしました。3名とも前任地は東海大学医学部付属病院であり、偶然にも同じ診療チームで患者さんの診察にあたっていたメンバーになります。もともとチームワークの良い3名ですが、これまで以上に力をあわせて県央医療圏の呼吸器診療に従事していきたいと考えております。

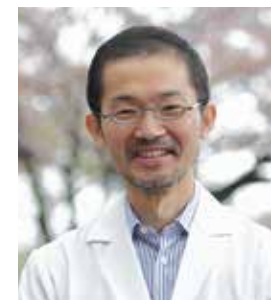
呼吸器は肺という一つの臓器を扱いつつも、診療の対象となる疾患は、急性から慢性、悪性から良性と多岐にわたります。診療チームとしては、間質性肺炎を専門としていますが、「肺は全身の鏡である」という言葉があり、これまでの経験から肺を通して総合的な内科の診療にもあたっていくことが可能です。

また、私達は患者さんの体のケアのみならず、心のケアも大切にしています。肺の病気で悩まれている患者さんに寄り添



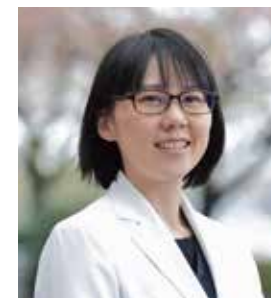
いながら、満足のいただける医療をご提供できるよう、他科の先生方、地域の先生方、多職種のスタッフの方々と密に連携し、文字通りのチーム医療を進めていきたいと思っております。まだスタートしたばかりの診療科チームであり、みなさまと一緒に科としても成長していきたいと考えておりますので、今後ともご指導、ご鞭撻の程、何卒宜しくお願ひ申し上げます。

海老名総合病院 呼吸器内科 医長 滝原 崇久



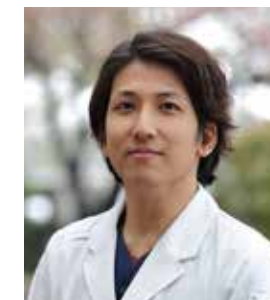
医長
滝原 崇久 Takahisa Takihara

慶應義塾大学(2001年卒)
[資格] 日本内科学会 総合内科専門医・指導医、
日本呼吸器学会 呼吸器専門医
[専門分野] 呼吸器疾患・間質性肺炎



高橋 茉里 Mari Takahashi

東海大学(2016年卒)
[専門分野] 呼吸器疾患・呼吸器疾患全般



榎田 啓十 Keito Enokida

東海大学(2012年卒)
[資格] 日本内科学会 認定内科医
[専門分野] 呼吸器疾患・呼吸器疾患全般

■外来担当医表

●海老名総合病院 紹介外来 ○海老名メディカルプラザ 外来

	月	火	水	木	金	土
午前	-	-	気管支鏡 検査	-	-	-
午後	○ 高橋	● 滝原	○ 滝原	○ 榎田	● 榎田	

※緊急の場合は地域連携課までご連絡ください。

患者様のご紹介につきましては、患者サポートセンターまでご連絡ください。
海老名総合病院 患者サポートセンター TEL 046-234-6719(直通) 神奈川県海老名市河原口1320

下田の豊かな自然に囲まれた病院で、
地域に必要な医療を提供します



南伊豆が好きで、「この地域の医療に貢献したい」という思いから、下田メディカルセンターでの外科診療に携わる津久井医師。地域医療の要となる診療についてや、赴任したいきさつ、南伊豆の魅力についてご紹介いたします。

赴任して1年。明るく、楽しい職場

働いている職員が皆とても明るい雰囲気でも私も楽しく働いています。伊豆急下田駅から近く、駐車場がたくさんあるので、患者さんも通いやすいのではないのでしょうか。看護師やメディカルクラークの方たちが診療をサポートしてくださり、医師としての仕事に集中できる環境もうれしいですね。

私の専門は外科ですが、医療設備が充実している一方で、一般的な手術は当院で対応できる体制です。開業医院の先生方との連携もスムーズで、地域に密着した病院として中心的な役割を果たしています。

伊豆の景色に導かれた縁

もともと海が好きだったので、中学生の頃から冬になるとリュックサックを背負って、西伊豆の雲見や子浦の辺りまで歩き回っていました。とても景色がきれいなところなんです。大人になってから偶然南伊豆の伊浜で古い家屋が売りに出ているのを見て、思わず購入。埼玉の自宅から、月に2回くらいのペースで週末に遊びに来るようになりました。

そのうちに新しい病院が駅の近くにできると知り、そこに大学の先輩である齋藤先生が赴任されるとお聞きしました。齋藤先生に連絡を取ると「大歓迎です!」と言っていたので、病院長の畑田先生とも趣味の音楽で意気投合。お互いに60年代、70年代の欧米ポップスが好きだとわかり、好きな曲まで同じでした。そうした縁もあって、こちらに入職することが決まりました。

地域に必要なとされる医療の提供

当科では消化器や乳腺の悪性腫瘍、虫垂炎、ヘルニア、胆石などの疾患を扱っています。地域的には「高齢の患者さんが多くいらつしますが、皆さんお元気なので病気よりはむしろケガで来院され

が一方的に患者さんを治療するだけではなく、患者さんから教わることもずいぶんあります。

伊浜の魅力の虜に

伊浜は、いつ見ても景色が美しいですね。最初は昼間の海がきれいだと思うていましたが、伊浜の家屋からは夕日が沈んでいく様子を正面に見られて、それもとてもきれいです。夜に船でたかれた、いさり火が並んでいるところや、月の光だけで輝く海にも胸を打たれます。

今は病院の近くから通勤していますが、もう少し日脚が伸びてきたら伊浜に1泊して出勤したいと考えています。シーカヤックなどのマリンスポーツにも挑戦したいです。

地域活性化へ向けて

現在、南伊豆町のさまざまな分野の方がが集まり話し合いをする、活性化のための委員会に所属しています。人口が減少する中で、これからの子どもたちのためにどのような街づくりをしていけばいいのか。委員会は活動を通して、考えていきたいと思っています。自然に恵まれた環境の良さを生かしながら、もっと若い人たちに来てもらえるように、医療の分野からも貢献していきたいです。



外科 津久井 元 Hajime Tsukui

1983年に東京大学医学部を卒業。同大学医学部附属病院での研修を経て、焼津市立総合病院、キッコーマン総合病院の外科に勤務。1992年にフランス政府給費留学生制度を利用し、キュリー研究所へ臨床分野で留学。帰国後は東京大学医学部附属病院に勤務し、東京通信病院外来化学療法センター長を務めた後、2019年4月から現職。



伊浜の家から見た駿河湾の景色

るケースが多い印象です。観光地でもあるため夏には観光客の受診も増えます。手術治療に関しては齋藤先生と伊藤先生がメインで行っており、必要に応じて私もサポートに入ります。緊急手術が必要な場合は、静岡がんセンターや順天堂大学医学部附属静岡病院など、連携先の医療機関へと迅速に搬送します。スムーズな協力体制を取っているのが特徴です。

回復期リハビリテーションから 健診業務まで

私はこれまで消化器外科と乳腺外科を専門にきましたが、当院のような地域医療を担う病院では、自分の専門分野以外も幅広く手がける必要があります。回復期リハビリテーション病棟では、当院で整形外科手術や脳疾患治療を受けた患者さんが、リハビリテーションによってご自宅に戻れるようにサポートする役割を果たしています。ほとんどが院内で治療を行った患者さんですが、高度急性期病棟からリハビリを目的に転院されて来る患者さんも受け入れています。充実したりハビリ体制が強みで、リハビリスタッフや専任の看護師たちに安心して任せることができます。また、健診業務も私が担当しています。内視鏡検査は今までの経験を活かして、疾患の早期発見につなげていきたいと思っています。

患者さん一人ひとりの 信頼関係を大切に

患者さんとは何でも聞けるような雰囲気づ

人の役に立つ仕事を目指して

私は、昔から医師をめざしていたのではありません。もともと数学に興味があり、東京大学の理学部に進学しました。しかしそこで学ぼうとすることに、やはり人の役に立つ仕事に就きたいと思い、医学部に入りました。小さい頃にシユヴァイツァーや野口英世の伝記を読んでいたことも、きっかけの一つになったと思います。

私が所属していた医局の上部消化管グループはフランスへ留学する先輩が多く、私もフランス政府奨学金留学制度というものを利用して、基礎医学を学びに渡仏しました。フランスは研究環境が整っていて、日本以上に女性が活躍している姿が印象的でした。

今考えると、進路を変えて医師になって良かったですし、とても自分に向いていると思っています。人と接するのが好きなのでしょね。私たち

患者様のご紹介につきましては、地域医療連携室までご連絡ください。

下田メディカルセンター 地域医療連携室 TEL 0558-25-3535(直通) 静岡県下田市6-4-10

2 海老名総合病院 第30回 県央救急救命研究会の開催

2月15日(土)、第30回 県央救急救命研究会を、地域医療連携推進法人さがみメディカルパートナーズと共催、県央4医師会の後援で開催しました。今回は「災害医療」をテーマに、元東京消防庁救急部長で、戸田中央医科グループ災害対策特別顧問の野口英一氏による基調講演と、地域



の救急・消防・行政・医療機関代表者によるシンポジウムを行い、消防・行政・医師会・医療関係者138名が参加しました。

第一部では、「特異災害・大規模災害における他機関との連携」をテーマに、過去の災害から昨年の台風19号災害まで、講師の経験を通じた組織間連携の重要性と、これからは被害を小さくして出来るだけ早く回復させる『縮災』の考えが求められるが、その為には「自助・共助・公助」の考えに基づく、平時からの減災対策が重要であることを講演して頂きました。

シンポジウムでは、「県央地域における大規模災害時の組織間連携促進に向けて」をテーマに、今後30年間で発生確率70%と言われる「都心南部直下地震」を想定した、各機関の



現状と課題について意見交換を行いました。

講演とシンポジウムを通じて「お互いを知る」という目的は達成出来たと思いますが、参加者からは、平時から顔の見える関係を越えた「腹を割った関係」と「(出来る事と出来ない事など)お互いの手の内を見せ合う関係」の構築、定期的な訓練、病院にも災害対策部門の設置または担当者の配置を、といった沢山のご意見を頂きました。今回の研究会を一過性ではなく、一つでも実現につなげられるよう、引き続き関与していきたいと考えています。

最後に、今回の研究会開催にご協力頂きました全ての皆様に、改めて感謝申し上げます。



1 海老名総合病院 新型コロナウイルス専用病棟である 海老名総合病院《東館》を開設しました

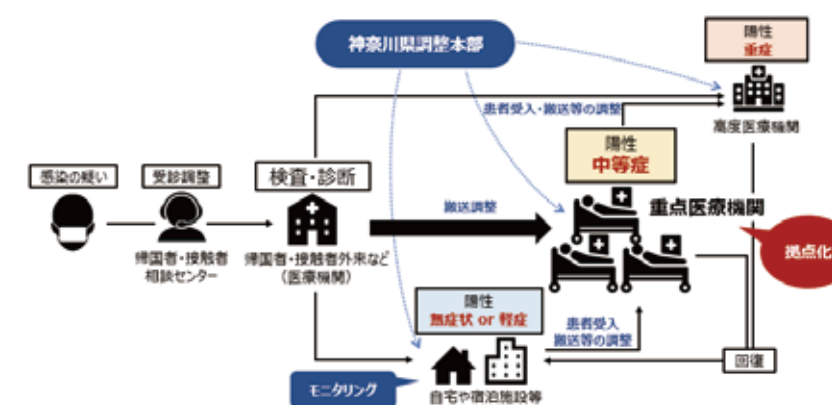
当院では2020年5月1日に、中等症新型コロナウイルス陽性患者さん専用の入院病棟として、海老名総合病院《東館》を海老名メディカルサポートクリニックの建物内に開設いたしました。《東館》を開設することで、海老名総合病院《本館》の患者さんと新型コロナウイルス陽性患者さんとの動線を分けることが可能になり、《本館》では今まで通りの医療を安心して行える体制としました。

神奈川県では早くから「神奈川モデル」と銘打って対策を進めてきました。新型コロナウイルス感染症の患者さんは、多くが中等症以下の症状で治ります。一方で、5%程度の患者さんが重症化するとされており、この患者さんたちの命を救うことが大きな課題となっています。この課題を解決するために、「神奈川モデル」では医療機関の役割分担を明確にし「選択と集中」で乗り切る対策をたて、神奈川県全体の仕組みを作り上げてきました。海老名総合病院《東館》は、「神奈川モデル」の中では重点医療機関にあたり、中等症の新型コロナウイルス感染症治療に専念する医療機関となります。



そして「神奈川モデル」では、もう一つ大事なコンセプトとして『原因によらず人命を救う』ということが挙げられています。なにも病気は新型コロナウイルス感染症ではありません。「神奈川モデル」において新型コロナウイルス感染症を治療する医療機関を集約させることで、それ以外の病院では今まで通り地域の健康を守っていく役割が与えられることになります。海老名総合病院《本館》では、まさしくその地域医療を守る役割を担っていきます。

■ 移行期・蔓延期の緊急医療体制「神奈川モデル」



私たちは、この新型コロナウイルス感染症との闘いに打ち勝つため全力をあげてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス専用病床を開設するとともに、海老名総合病院および座間総合病院においては、ご受診される患者さまに対し、引き続き新型コロナウイルスの感染防止を徹底し安全を確保しながら、これまで同様の医療提供を行ってまいります。地域の先生方におかれましては変わらず安心してご紹介いただけますようお願い申し上げます。

患者様のご紹介につきましては、患者サポートセンターまでご連絡ください。
海老名総合病院 患者サポートセンター(地域連携課) TEL 046-234-6719(直通)

社会福祉法人ケアネット

一人ひとりの生活リズムにあわせたサービスを ～見守り支援システム「眠りスキャン」を導入～

社会福祉法人ケアネットでは、入居者の見守り支援と個別ケアを目的に、今月から神奈川県4つの特別養護老人ホームで「眠りスキャン」を導入しました。

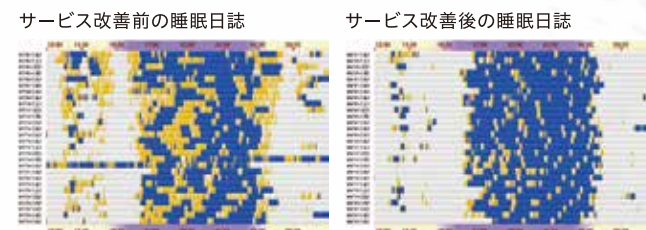
これは、ベッドマットレスの下に設置したセンサーにより、体動(寝返り、呼吸、心拍など)を測定し、睡眠状態を把握できるというシステムです。得られた情報はパソコンやスタッフの持つ携帯端末にリアルタイムで送信され、より迅速な対応を可能にします。



センサーをマットレスの下に敷いて、スイッチを入れるだけで測定ができます。

「体調変化の早期発見だけでなく、測定したデータをアセスメントし、入居者の生活リズムに合わせたケアプランを提供できるところが一番大きなメリットです。例えば、夜の睡眠が短い方は昼寝の時間を調整したり、夜間の訪室で睡眠を妨げることを防いだり。入居者の個性を追求して、より個人に合わせたサービスを提供していきたいですね」

(特別養護老人ホーム和心(なごみ)施設長 金子 直浩)



改善後は夜間の覚醒(黄色の部分)が明らかに減っています。

社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス

介護老人保健施設アゼリア

介護ロボットもスタッフの一員 ～ロボコネク「Sota」に会える～

介護老人保健施設アゼリアでは、神奈川県介護ロボット普及推進センター事業の一環として、ロボコネク「Sota」を導入しています。

「Sota」は対話ができるコミュニケーションロボット。モニターと接続すれば、歌やゲームなどのレクリエーションに合わせて、画面と連動した動きをする、高度な機能と可愛らしさを兼ね備えたロボットです。

神奈川県介護ロボット 普及推進センター事業とは

介護・医療分野の負担軽減とサービスの質の向上につなげるため、県内の介護・医療関係者等への介護ロボットの公開や導入を支援することで、開発支援、普及促進を図ることを目的とした神奈川県の事業。

アゼリアは2016年に神奈川県と協定を締結し、公開事業所としてデモロボットの視察・見学なども受け入れています。



「認知症の方などはもちろん、会話を促進することは高齢の方々にとって、とても大切です。面白い、と言って1時間も話をしているご利用者様もいらっしゃいます。私たちも急な対応が入った時など、ご利用者様のレクリエーションをSota君に対応してもらおうことができるので、Sota君はアゼリアスタッフの一員です。」
(介護老人保健施設アゼリア 介護係長 松永 真由美)

3 医療・介護はAIの時代へ

社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス

神奈川県
病院初!

座間総合病院

座間総合病院にてAI(人工知能)問診を導入

2019年3月の厚生労働省の「医師の働き方改革に関する検討会」で取りまとめられた報告書により、2024年4月以降、研修医や医師の時間外労働に対して上限規制が適用されるなど、医師の働き方改革の遂行が急務となっています。

このような環境の中、座間総合病院では今年1月より、AI(人工知能)を活用する問診システム「Ubie(ユビー)」を導入しました。外来を受診する初診の患者さんに受付窓口にてタブレット端末をお渡しし、従来の紙の問診票に代わって事前問診を行うもので、神奈川県内の病院では初めての導入事例となります。

「Ubie」は、複数の現役医師を含むチームが開発した問診

に特化したシステムで、約5万件のデータに基づき、AIが患者さん一人ひとりの症状や地域・年代に合わせた質問を自動で分析・生成。患者さんがタブレット画面に表示される質問に沿って回答を選択すると、AIが電子カルテに記載する問診所見を自動で作成します。AI問診の導入により、従来の紙問診での限られた事前問診情報に比べ、より詳しく患者さんの状態や症状を把握できるようになり、これらの事前問診情報を即時に電子カルテに記録することが可能です。

現在は座間総合病院の一般内科・総合診療科にて運用を開始しており、今後は、海老名総合病院、海老名メディカルプラザなどでも導入に向けて検討をしていく予定です。



静岡県駿東
伊豆エリア
初!


下田メディカルセンター

患者さまの健康を地域で支える
——「ふじのくにねっと」を導入——

下田メディカルセンターでは、今春から患者情報・臨床検査結果・薬歴・DICOM画像等を参照医療機関に情報開示するwebシステム「ふじのくにねっと」を静岡県駿東・伊豆エリアにおいて初めて導入し、隣接地域の専門医療機関との情報共有をスタートしました。


救急患者が出た際に、当院では「ふじのくにねっと」を活用して専門医療機関等の指導・助言を受けて適切な治療や応急措置を行うとともに、再搬送後の専門医療機関においても診療情報をもとに速やかに医療提供ができるメリットがあります。

賀茂医療圏における限られた医療資源を効率的に活用するため、当院ではこれからも近隣の医療機関と連携を強化してまいります。



ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル
ふじのくにねっと
FUJINOKUNI NET

2019年12月末時点



【開示施設】
中核病院数:16病院+1診療所 (いやしの里)

【参照施設】
診療所・クリニック・薬局数:118施設 (開示件数:32,231件)

稼働開示施設	稼働時期	稼働開示施設	稼働時期
① 静岡県立総合病院	2011/04	⑩ 市立島田市民病院	2013/04
② 焼津市立総合病院	2011/04	⑪ 菊川市立総合病院	2013/04
③ 藤枝市立総合病院	2011/04	⑫ 磐田市立総合病院	2013/04
④ 市立御前崎総合病院	2012/01	⑬ 中東遠総合医療センター	2014/04
⑤ 桜ヶ丘病院	2012/01	⑭ 榛原総合病院	2014/04
⑥ 静岡済生会総合病院	2012/02	⑮ 静岡県立こども病院	2017/04
⑦ 川根本町いやしの里診療所	2012/09	⑯ 静岡県立こころの医療センター	2017/04
⑧ 富士市立中央病院	2012/10	⑰ 医療法人社団アール・アンド・オー	2017/04
⑨ 公立森町病院	2012/11		

お問い合わせ

下田メディカルセンター TEL 0558-25-2525(代) 〒415-0026 静岡県下田市6-4-10

施設のご紹介

医療法人社団 静岡メディカルアライアンス(静岡地区)



下田メディカルセンター

〒415-0026
静岡県下田市6-4-10
TEL 0558-25-2525(代)



下田メディカルセンター附属
みなとクリニック

〒415-0152
静岡県賀茂郡南伊豆町湊674
TEL 0558-62-0005(代)



しらはまクリニック

〒415-0012
静岡県下田市白浜1528-2
TEL 0558-27-3700(代)



介護老人保健施設
なぎさ園

〒415-0152
静岡県賀茂郡南伊豆町湊674
TEL 0558-62-6800(代)